

平成20年度 都立小石川高等学校経営報告

全 日 制 課 程

東京都立小石川高等学校 校長 栗原卯田子

1 今年度の取組と自己評価

(1) 教育活動への取組と自己評価

教育活動の目標	教育活動への取組と結果
<学力向上> 学習指導	
学力向上を目指した学習指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員全員で「授業を大切に」を合言葉に、授業時間を確保し、チャイムと同時に授業開始を励行した。 ・小石川教養主義に基づいた教育課程を展開した。3年次の特別講座等をはじめに、生徒の興味関心を高めるとともに、生徒の学力を向上させる講座を充実させた。 ・高校1年の「社会参加」(奉仕)は、教務と学年が連携して小・中学校やボランティアセンター等で様々な奉仕体験活動ができた。特に、小学校では学習指導、プール指導、学校行事等の補助を行い、充実した「社会参加」が実施できた。 ・大学教授による小石川セミナーを5回実施した。生徒の学力向上、学習への興味関心、学習意欲の向上等を図る機会となった。 ・「生徒による授業評価」を2回実施し、結果に基づき、校内研修を2回実施した。生徒による授業への満足度は4段階で平均3.5であった。概ね、生徒たちは満足している結果が出た。 ・開拓21(学校運営連絡協議会)による学校評価では、授業満足度は生徒が78.5%、保護者が83.5%を超え、いずれも平成19年度より約3%向上した。 ・学力の向上を目指した土曜日の講習、放課後の補習、朝学習等が実施された。
進路指導	
組織的な進路指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・大学入試説明会、分野別大学模擬講義、進路講話など、進路指導を充実させた。 ・「キャリア教育全体計画」に基づき推進した。高校1年生では「社会参加」(奉仕)により、地域の小学校、ボランティアセンター等で奉仕体験活動をした。 ・進路指導部が教員に対して、生徒に配布する「進路の手引き」の活用説明会を実施し、生徒への進路情報の均質化、進路指導力の向上を図った。 ・模試結果分析会を学年毎に3回ずつ実施し、課題等を把握し、本校の進路指導のあり方について研究した。 ・クラス毎に二者面談、三者面談を実施した。 ・組織で夏季休業日中には進学対応のための講習計画を計画した。しかし、生徒への周知時期、合宿との関係などで課題が残った。
生活指導	
生徒の規範意識と自己管理能力向上	<ul style="list-style-type: none"> ・全校集会、学年集会、HR、生徒会、各種各委員会、学校行事、部活動等において、生徒が互いに尊重し協力し合って自律的に望ましい学校生活を行えるよう指導した。また、ルールや時間厳守等の指導をし、自己管理能力を向上させた。 ・美化委員会が美化点検活動を行うなど校内環境が向上した。 ・「授業を大切に」をモットーにチャイムと共に始まる授業規律を指導した。 ・3月にセーフティ教室を開催し、薬物乱用防止や交通安全等の指導をした。また、保健の授業やHR等で心身の健康について指導した。
特別活動・部活動	
学校行事、生徒会活動、部活動の一層充実	<ul style="list-style-type: none"> ・集会やHR、生徒会、美化委員会等で環境整備と校内美化指導を行った。美化委員会が美化点検活動を行うなど奉仕的精神が涵養された。 ・生徒が主体的、創造的に体育祭・創作展などの学校行事、委員会活動、部活動等を小石川中等教育学校と一体化させて実施した。生徒の自主自立の精神と連帯感が醸成され、帰属

	<p>意識を高めることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HR 指導計画を立て、計画性のある HR 経営を行い、HR 活動を活性化させた。 ・高校 1 年の「社会参加」（奉仕）は、小・中学校やボランティアセンター等で様々な奉仕体験活動ができた。特に、小学校では学習指導、プール指導、学校行事等の補助を行い、充実した「社会参加」が実施できた。 ・「物理研究」では高校生国際物理学研究コンテスト(ポ-ラント`科学アカ`イミ-)において 5 年連続入選の快挙となった。 ・美術部は全国高等学校総合文化祭に出展した。
健康づくり	
心と体の健康推進	<ul style="list-style-type: none"> ・学校保健計画に沿って健康増進を計画的に行なった。 ・学校保健委員会を実施して、本校の生徒の健康状態を把握し、専門医の助言を受けながら、生徒の健康管理を行なった。生徒・教職員の健康意識が高まった。 ・健康面で課題のある生徒については、個別の指導を行うと共に学校全体で配慮する体制をとった。生徒理解が深まり適切な指導が行えた。 ・毎月、生徒保健委員会を指導して保健の授業やHR 等と連携した「保健室だより」を 11 回発行し、生徒・教職員の心身の健康への意識を高めた。 ・スクールカウンセラーと連携し生徒の相談と共に保護者の相談もなされた。また、スクールカウンセラーを活用した校内研修会を実施し、本校の生徒の課題や対応について教職員で共有化を図った。 ・「交通安全教室」と「薬物乱用防止」のセーフティ教室を 3 月に実施した。
<SSH 推進事業>	
	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の主体的な活動の場であるオープンラボ等では以下のような充実した活動が展開された。 <ul style="list-style-type: none"> (1)化学分野では『化学的酸素要求量(COD)の基礎的研究』などの研究が進められ、52 回日本学生科学賞の東京都大会において優秀賞・奨励賞を受賞 (2)物理分野では「物理研究」では高校生国際物理学研究コンテスト(ポ-ラント`科学アカ`イミ-)において 5 年連続入選の快挙となった。また、「物理チャレンジ 2008」では優秀賞、奨励賞を受賞。 ・「小石川セミナー SSH 講座」を 4 回開催し、それぞれの講座では、生徒たちから、多くの質問が出され、充実した講座となった。 <ul style="list-style-type: none"> (1)「個の総体がまちを創る」(2)「卵と精子で始まる生と死」 (3)「景観と風景の世界」(4)「光と生物のかかわり」 ・2 月に生徒研究成果報告会を実施した。物理、化学、生物、地学、数学の 5 分野から、生徒の発表がなされた。それぞれの分野で、充実した内容の発表がなされた。
<90 周年行事>	
	<ul style="list-style-type: none"> ・小石川 90 周年実行委員会を 4 回開催し、同窓会、保護者、学校の三者が一体となり 90 周年記念式典の企画を行ない、11 月に式典を挙行了。3 部構成からなり、卒業生による特別記念講演、卒業生と在校生による記念行事が行なわれ、三者が一体となった式典が行なわれた。 ・記念誌編集委員会により、記念誌「小石川この十年」を発行した。
<学校経営>	
	<ul style="list-style-type: none"> ・中等教育学校が 3 学年、高等学校が 3 学年となり、初めて 6 学年が揃った年であった。小石川中等教育学校への改編時期の様々な課題の共通理解と解決に向けて、「チーム小石川」として、小石川中等教育学校と一体となった学校経営を進めた。 <ul style="list-style-type: none"> (1)企画調整会議、職員会議、各委員会を一体となって行った。 (2)小石川職員室として職員室を一つにした。 (3)予算調整面では義務教育部分と高校部分の予算編成時期の違いなどの課題等を、経営企画室が中心となり一体化した予算調整ができた。 ・学校運営連絡協議会での学校評価の「必要に応じて補習や講習が活用できる体制ができているか」の項目で、満足度が生徒、保護者ともに 63%と低かった。この結果を踏まえ、平成 21 年度では夏季休業日中の補習・公衆を中心に充実を図る具体的な計画が教務部・進路指導部で進められることになった。 ・SSH 広報パンフレットを 3000 部作成、配布し、小石川高等学校、小石川中等教育学校での SSH の活動

等の普及と広報に努めた。

- ・公開講座の開催やグラウンド開放など学校開放事業を推進した。

(1)公開講座 「宮沢賢治を読む」 土曜日 全5回

(2)施設開放

グラウンド 土日6日、平日夜間180日 (サッカー、野球)

テニスコート 土日2日、平日夜間213日 (テニス)

紫友会館 会議室 土日75日、和室 土日79日 (学習会等)

(2) 重点目標への取組と自己評価

<学力の向上> 学習指導の充実

- ・小石川教養主義の下、「授業を大切に」を合言葉に、授業時間を確保し、チャイムと同時に授業開始を励行するなど授業第一主義をとった。
- ・大学入試の分析を教科担当ごとに実施している。今後の課題は、組織的に大学入試問題の研究を薦める必要がある。
- ・学校運営連絡協議会による学校評価での授業に関する満足度は、「多くは教え方に工夫がある」「熱心に教えている」を合わせると生徒が78.5%、保護者83.5%となり、前回調査より約3%上昇した。生徒、保護者から高い満足度を得ることが出来た。
- ・「生徒による授業評価」を2回実施した。生徒による授業への満足度は段階で平均3.5であった。概ね、生徒たちは満足している結果が出た。また、この結果に基づき、校内研修を2回実施した。今後は、さらに授業改善と指導力の向上のために、充実した分析が出来るよう評価方法を工夫する必要がある。
- ・外部模試分析会を学年毎に3回ずつ実施した。学年、各教科で課題と指導の方向性を共通理解し、改善のために授業計画等にその結果を反映させた。
- ・土曜日の補習・補講は教科担当ごとに実施。夏季休業中の補習・講習については組織的に計画したが、夏季合宿との関係、生徒への周知時期等で課題が残った。平成21年度は、生徒への周知時期等を含めて改善する必要がある。
- ・同窓会その他との協力により、5回「小石川セミナー」を開催した。生徒が学問の最先端や社会の第一線で活躍している方の話を聞くことができた。

生活・進路指導の充実

- ・高校1、2年では生活実態調査、高校生活アンケートを実施した。そのデータを下に、各担任より、学習状況等の生活スタイルの見直しなどの指導をした。
- ・学年毎に学年情報交換会を実施し、生徒に関する情報を共有化し、生徒指導に役立てた。
- ・進路講演会、進路説明会、履修指導、学年・HR指導等、3年間を見通した進路指導計画を作成し、計画通り実施した。また、外部の講師による生徒向け、高校2年保護者向け進路講演会をそれぞれに実施した。高校3年では面接、生徒の受験スケジュール表を活用した指導を実施した。
- ・教員に対して「進路の手引き」活用法の説明会を進路指導部が主催し、「進路の手引き」を活用した生徒の主体的な進路学習を支援した。結果として、学級毎の指導の均質化が図れた。
- ・大学の先生方による分野別大学模擬講義を12月に実施した。
- ・外部模試を3回実施し、その結果の分析会を学年ごとに実施した。

<SSH事業推進>

文部科学省のスーパーサイエンスハイスクール指定校3年目となった。SSH事業推進委員会をより効果的に運営し、目標を達成するために新たにSSH推進プロジェクトを推進委員会の中に設置し、SSH事業の推進力をアップした。

- ・2月に生徒研究成果報告会を実施した。物理、化学、生物、地学、数学の5分野から、生徒の発表がなされた。東京大学、東京学芸大学の教授より指導講評をいただいた。
- ・8月に横浜パシフィコで行なわれた全国大会である生徒研究発表会に参加した。化学研究会が「JIS法によるCOD測定の基礎的考察」というテーマで口頭発表を行った。また、ポスター発表にも参加した。
- ・大学等との連携による実験講習会では以下の取組を行った。
(1)『小石川と戸隠を結ぶ大地と生命』の研究

<p>信州大学教授による指導の他、東京大学地震研究所浅間観測所見学、戸隠地質化石館での実習、長野市立博物館見学</p> <p>(2)お茶の水女子大学での実習 お茶の水女子大学の教授・准教授の指導による以下の主題での実習 『大腸菌への形質導入実験』『アルコール代謝能力の判定』『動物細胞の細胞接着と細胞のかたちの不思議な関係』</p> <p>(3)つくば研究学園都市の研究施設見学 筑波宇宙センター、高エネルギー加速器研究機構を見学</p> <p>(4)本校が幹事校となり、東京で指定されている国公立の6校が集まり東京都指定校合同発表会を12月に都庁第一庁舎の大会議室で初めて実施し、527名の参加者があった。参加者へのアンケート調査では80%以上の方から良かったとする結果を頂いた。</p> <p>以上をはじめとする様々なSSH事業を実施するとともに、他校視察や校内研修を重ね、テーマである6年間を見通した理数カリキュラムの開発を行った。理数科教育の予算もさらに充実し、施設設備等を充実させることができた。</p>
<p>< 創立90周年記念事業 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・小石川90周年実行委員会により、11月8日(土)に文京シビック大ホールにて90周年記念式典を挙行了。同窓会、PTA、学校が一体となった式典を実施するために、実行委員会を4回開催し、内容を企画・立案し実施した。その結果、1263名の参加者の下、 部：「式典」、部：卒業生である岡野俊一郎氏による「記念講演」、部：在校生と卒業生による「記念行事」の3部構成で、盛大かつ一体となった素晴らしい式典が実施できた。 ・記念誌編集委員会により、記念誌「小石川この十年」を発行した。内容はこの十年間の様々な記録等と同窓会の協力を得て、「初代校長伊藤長七を語る」をテーマに座談会を実施し、掲載した。 ・同窓会の協力を得て、五中時代からの資料を整理し、校舎2階に資料室を設置した。
<p>< P R 活動の充実 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・HPについては、学校経営計画、年間授業計画などの学校の基本情報を載せると共に、本校の特色であるスーパーサイエンスハイスクール、行事週間等の情報を発信した。 ・小石川高等学校、小石川中等教育学校の授業公開では5月1772名、10月1910名、体育祭・芸能祭・創作展の行事週間では7,245名の来校者があり、積極的に公開した。その結果、9月と10月では1万人に達した。 ・SSH広報パンフレットを3000部作成、配布し、小石川高等学校、小石川中等教育学校でのSSHの活動の普及と広報に努めた。
<p>< 数値目標 > センター試験実質受験率 70%</p>
<p><実績> ・現役合格は68.3%であるが、合格浪人を含めると浪人40.9%の結果となった。 ・センター試験実質受験率は80.4%となり目標を達成した。</p>
<p>< 数値目標 > 国公立大学合格者 現役 30名 現浪計 70名</p>
<p>・国公立大学合格者は、現役21名、浪人22名の現浪計43名であった。目標は達成できなかったものの、現役の21名は、卒業生が4クラスに半減になったことを考えると、昨年の現役40名とほぼ横ばいの状態であった。</p>

2 次年度以降の課題と対応策

(1) 生徒の希望する進路を実現するために、進路指導部、プロジェクトが中心となり、以下の対応策を中心に進路指導の充実をはかる。

大学入試説明会、分野別大学模擬講義、進路講話等の充実を図る。

夏季休業日中の講習を早期に計画し、生徒に講習の内容、時期等を周知し、長期休業日中の講習を充実させる。

外部模試の結果分析会を実施し、教科、担任にフィードバックし生徒の学力向上を図る。

国公立大学を希望する生徒が多いことから、2学期末からセンター試験対策の講座を設けるなど工夫をする。

各教科等で国公立難関私大の入試問題を研究する。

- (2) 教科・科目で基礎・基本の徹底を図り、生徒の学力の向上を図る。
生徒による授業評価、「開拓21」による学校評価等の集計結果を分析し、授業の改善・工夫に活かし、生徒にフィードバックする。
各科目の年間授業計画(シラバス)を作成し、本校の生徒の実態に即した教材、実験等を展開する。
生徒に予習・復習等を定着させるとともに、課題、レポート等により生徒が主体的に取り組む学習を充実させる。
図書館、自習室の学習環境の充実を図る。
- (3) 特色化の推進
生徒に基本的な生活習慣やルール、マナーを身に付けさせ、生徒の自律的な生活態度・姿勢等を習慣化させ、生徒の自己管理能力及び品格を高める。
SSH事業における「生徒研究成果報告会」、「東京都指定校合同発表会」、「小石川セミナー」等の充実をはかる。
中等教育学校と一体となった部活動や学校行事等の充実を図り、本校の伝統である主体性と創造性を喚起・育成する。